新潟県小中学校教頭会
会報
No. 181

目　次

●副会長あいさつ …… 1
●県教頭会ブロック研究大会に向けて …… 2～3
●全公教徳島大会参加報告 …… 4
●郡市教頭会ネットワーク …… 5～6
●新入会員の声 …… 7～8
●特集「キャリア教育」…… 9
●随想 …… 10

役に立つ五千円札になる

新潟県小中学校教頭会
副会長　**中　野　民　生**
（新潟市立木戸中学校）

「なかなか夏季休暇が取得できない。」という声を今年はよく聞きました。特に、中学校では中体連（中学校体育連盟）の全国大会が北信越ブロック（新潟県は、柔道が上越市・水泳が長岡市・軟式野球が新潟市と三条市）で開催されたので、例年に比べ多くの教職員が生徒の引率業務以外に、大会役員として借り出されました。週休日にも大会が行われたため、勤務の振替が必要になったりして、夏季休暇の確実な取得のための調整が大変でした。皆さんの学校ではいかがでしたか。

そんな夏休み。近場の日帰り温泉に行った時のことです。『入浴後、水分補給のため自動販売機に向かうと、リストバンドに付いたバーコードで買える機械ではありませんでした。運の悪いことに財布の中の硬貨が足りなく、さらに千円札もない状況。五千円札はあったが自動販売機では使えないため、仕方なくフロントで五千円札を千円札に両替してもらい、ペットボトルを購入。』といった、誰でも一度は経験したことのあるような場面ですが、ふと「五千円札は使いにくいなあ。でも五千円札って、なんだか教頭みたいなところがあるな。」と思いました。

財布の中に一万円札と五千円札があったら、やはり五千円札を先に両替して使うでしょう。普段はすっきりと一緒に財布におさまっていても、いざという時には一万円札よりも先に出てきて、自ら身を粉にして人の役に立とうとする五千円札の姿と教頭の在り方が重なりました。ただ、「五千円札は使いにくいなあ。」と感じさせるようなレスポンスの低さは困りものだなあと、つくずく真面目に考えた一日でした。

そんなことを心のどこかに留め、今年度開催された大会とこれからの大会についてふれてみます。

7月27～29日の全国公立学校教頭会研究大会徳島大会については、本会報の報告をご覧いただきたいと思います。10月1日の「日本教育会第41回全国教育大会新潟大会」には、県内から約300名の教頭会員が集まり、大会参加と会場設営・駐車場誘導他の役割を担いました。遠方から参加していただいた先生方と、大会役員として献身的に業務に協力していただいた先生方に、この場をお借りして御礼申し上げます。また、同日には「部落解放同盟研究大会」が魚沼市で開催されており、そちらに参加された会員の方々も充実した研修をされてきたことと思います。

そして10月28日、いよいよ第52回新潟県小中学校教頭会研究大会、第10回ブロック別研究大会が開催されます。当日に向けて、各ブロックでの準備が進んでいることと思います。会報180号で小島研究部長が、大会要項の精読と協議の柱を確認し「主体的に参加」するよう要請しています。「自立・協働・創造」に向けた児童・生徒一人一人の主体的な学びを保障する学校づくりの中核となる教頭の在り方を追究した取組について、全会員で共有し、自校での実践に確実に繋げていきましょう。加えて、昨年も会報でふれましたが、今年はどんな写真が大会要項の表紙を飾るかも楽しみです。皆さんもご期待ください。

また、すでに来年平成29年度の全県研究大会（上越市）や平成31年度の関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会（新潟市）の準備も進められています。随時、会員の皆様にもその概要をお知らせしていきますので、ご協力をお願いいたします。

県教頭会ブロック研究大会に向けて

上越ブロック 研究大会に向けて

上越ブロック研究大会事務部部長
阿　部　　浩
（刈羽村立刈羽小学校）

柏崎市市民プラザを会場に、柏崎市刈羽郡小中学校教頭会が主管し、準備を進めています。８月９、10日には、指導者と提案者・支援者との打合せ会を行いました。各分科会の概要は、以下のとおりです。

【第１分科会】教育課程に関する課題（小）
提言者：百目鬼弘通（妙高市立妙高高原北小学校）
支援者：梅川　貢司（妙高市立妙高高原中学校）
指導者：神林　　均　様（柏崎市立日吉小学校長）

教頭として、こども園・小学校・中学校の連携・協働の体制や取組を発展・活性化させるための方策や既存組織を生かしたコミュニティ・スクール化を進める上での課題等について提言します。

【第２分科会】教育環境整備に関する課題（中）
提言者：石野　光一（上越市立雄志中学校）
支援者：瀧澤　幹愛（上越市立高士小学校）
指導者：若月　俊彦　様（柏崎市立鏡が沖中学校長）

教頭として、キャリア教育を中核に中学校区小・中学校９年間のつながりのある教育活動や地域との連携の推進、地域全体で子どもを育てる環境づくりの構築等について提言します。

【第３分科会】教職員の専門性に関する課題（小）
提言者：平野　浩一（糸魚川市立田沢小学校）
支援者：市村　　豊（糸魚川市立市振小学校）
指導者：斎喜　和彦　様（柏崎市立剣野小学校長）

中学校区の教職員の資質向上と教職員同士の連携が深まってきた成果・足跡を発表します。更に、中学校区のチーム力を高めるための教頭のマネジメントについて追究します。

柏崎市刈羽郡小中学校教頭会は35名で構成されており、昨年度から準備を進めてまいりました。当ブロック研究大会において、一人一人の貴重なご意見を基に、「教頭同士のネットワークをより密なもの」とした「他の教頭に学び自校の組織マネジメントに反映することができる」熱い協議が柏崎の地で展開されることを願っております。

中越ブロック 研究大会に向けて

中越ブロック研究大会事務局部長
髙　橋　　登
（南魚沼市立塩沢小学校）

今大会は、南魚沼郡市教頭会、魚沼市小中学校教頭会、小千谷市小•中•特別支援学校教頭会の３つの教頭会が主管を務めます。よろしくお願いします。

各分科会の概要は、次のとおりです。

【第１分科会】教育課程に関する課題（中）
「中学校区の小中連携の取組について」
提言者：星野　晴重（加茂市立加茂中学校）
指導者：上村　みほ　様（中越教育事務所指導主事）

【第２分科会】子どもの発達に関する課題
「地域との連携、中学校区の他の小学校との連携による小規模校の課題解決」
提言者：藤ノ木美花（小千谷市立東山小学校）
指導者：三澤　淳伸　様（中越教育事務所指導主事）

【第３分科会】教育環境整備に関する課題
「地域と連携する教育活動推進のための教頭の役割」
～地域と学校を結ぶ上北styleとteam上北～
提言者：外山　　孝（見附市立上北谷小学校）
指導者：田邉　寿夫　様
（中越教育事務所社会教育課副参事）

【第４分科会】組織•運営に関する課題（中）
「小中一貫教育の組織と運営における教頭の役割」
提言者：南雲　恵子（十日町市立川西中学校）
指導者：樋熊　敏文　様（中越教育事務所指導主事）

【第５分科会】教頭の職務に関する課題（小）
「教職員の服務規律の確保に向けた教頭の役割」
～非違行為根絶に向けて～
提言者：笠井　猛雄（長岡市立青葉台小学校）
指導者：水嶌　繁満　様（中越教育事務所指導主事）

会場は湯沢町NASPAニューオータニです。公的施設ではないということで参加費が若干高くなり、会員の皆様には御迷惑をおかけしますが、その分、快適な大会運営を心がけたいと思っております。

当日は南魚沼の山々が紅葉で彩られる時期でもあります。おいでの際には、南魚沼の秋もお楽しみいただけたらと思います。会員の皆様の積極的な参加をお待ちしております。

県教頭会ブロック研究大会に向けて

下越Ａブロック研究大会に向けて

下越Aブロック研究大会実行委員長
武　井　真一郎
（新潟市立山田小学校）

下越Ａブロックは、新潟市と佐渡市で構成されています。今年度は新潟市小学校教頭会が主管し、新潟市のユニゾンプラザを会場に開催します。昨年の10月に実行委員会を立ち上げ、各区教頭会ごとに仕事を分担し、定例の区教頭会での活動に合わせながら準備を進めてまいりました。

本大会では、昨年度の佐渡大会の成果を踏まえて３つの分科会を設定し、８月９日（金）に事前の検討会を行い、発表内容を練り上げてまいりました。

各分科会の課題、発表者、指導者は、次のとおりです。

【第１分科会】組織・運営に関する課題

各校の地域特性に応じたよりよい防災体制の構築を目指して　～教頭会での情報交換・情報共有に基づく防災体制改善の取組～

発表者：齋藤　　暢（新潟市立牡丹山小学校）
指導者：川合　千尋　様
（新潟市教育委員会学校支援課指導主事）

【第２分科会】教育環境整備に関する課題

地域とつながり元気付ける教育活動と教頭の関わり　～地域財産を生かした地域連携・協働の在り方～

発表者：松本えりか（佐渡市立前浜小学校）
指導者：森　　和人　様
（下越教育事務所学校支援第２課指導主事）

【第３分科会】組織・運営に関する課題

インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育の推進　～支援体制づくりのための小・中連携と教頭の役割～

発表者：溝井　智美（新潟市立赤塚中学校）
指導者：齋藤いずみ　様
（新潟市教育委員会学校支援課総括指導主事）

いずれも、現在の学校にとって重要な課題です。要項を事前に熟読されて、当日は皆様の積極的な参加をお願いいたします。

下越Ｂブロック研究大会

下越Bブロック研究大会研修部長
磯　部　　睦
（村上市立朝日みどり小学校）

昨年度、組織を新たにしてスタートした「村上市・岩船郡小中学校教頭会」が運営を担当します。新組織になって初めての研究大会の成功に向け、木ノ瀬実行委員長のもと、事務部、研修部、設営・庶務部がそれぞれの役割を担い、早い時期から準備を進めてきました。以下に、各分科会の概要を紹介いたします。

【第１分科会】教育課程に関する課題

「保護者や地域と連携・融合した教育活動の推進」

提言者：土田　利康（新発田市立二葉小学校）
支援者：飯塚　進（新発田市立紫雲寺小学校）
指導者：川村　尚史　様（下越教育事務所指導主事）

各学校の地域連携を支援するために、教頭会に新たな組織を立ち上げ、先駆的な取組を共有しました。各学校の特色ある教育活動がより充実する関わり方について提言します。

【第２分科会】教職員の専門性に関する課題

「キャリア教育の充実に向けた教頭の役割」

提言者：吉田　和則（胎内市立中条中学校）
支援者：近　　正　（胎内市立築地中学校）
指導者：若狭　陽一　様（下越教育事務所指導主事）

「ふるさと体験学習」と「職場体験学習」を中核とした「中学校区キャリア教育プラン」の実践に取り組みました。キャリア教育充実のために教頭が果たすべき役割を提言します。

【第３分科会】教頭の職務（小中連携）に関する課題

「地域とともに歩む学校づくりと教頭の役割」

提言者：渡邉　正人（阿賀野市立京ヶ瀬中学校）
支援者：石崎　晃一（阿賀野市立安田中学校）
指導者：石黒　篤志　様（下越教育事務所指導主事）

「あがの子ども未来フォーラム」における小中連携組織や地域連携の在り方を見直しました。「連携推進組織の確立」と「情報の共有化」、「教職員への働き掛け」という視点から、小中連携を核とした地域連携の推進における教頭の役割を提言します。

全公教徳島大会参加報告

豊かな人間性と創造性を育む学校教育

佐　藤　昌　弘
（長岡市立千手小学校）

初日の全体シンポジウムの話題の中で、郷土への誇りをもたせるためには、地域のよさを大人（先生）が知り、誇りをもって子どもに伝え、子ども自身が地域のよさに気付くことが大切という話がありました。子どもが夢や希望を膨らませるための取組例として、徳島県神山町における企業や芸術家と連携しながらドローンや３Ｄプリンターを授業に活用している事業が紹介されました。

また、たくましく生きるという話題の中では、企業家の立場から、上司に叱られて会社を辞める若者が多い昨今、困難に立ち向かう教育を小さいうちに経験させたいという話がありました。有効な解決策は、地域の様々な人・文化・歴史等と子どもをつないでいくことで、そのマネジメントを推進するのが教頭の重要な役割ということでした。

２日目の分科会「第１Ｂ教育課程に関する課題」では、生きる力を育む教育課程の編成について、富山県と徳島県の教頭会から提案がありました。教頭は様々な分掌主任に対し、ねらいの確認、活動内容の吟味、リスクの共通理解などに努めているということでした。担当者任せにしない積極的な関わり方や一工夫加えて活動をよくしようとする意識に、教頭としての大切な構えを学びました。

最終日には、「株式会社いろどり」の横石知二氏による記念講演「そうだ、葉っぱを売ろう～居場所と出番づくり～」がありました。氏は徳島県上勝町で料理の妻物となる葉っぱを商品として扱い、過疎と高齢化に悩む町を再生させました。人を動かすためには、その人とつながることのできる糸（家族・仕事・名誉・お金・遊び）を見つけ、少し高めのビジョンとプロジェクトを示し、「あなたならできる。」と伝えていくという言葉が印象的でした。

人は誰もが主役になれるから、その人に合った居場所と出番のつくり方を考えていくことが大切だという内容に教育との重なりを感じました。

実り多き大会

松　原　利　弘
（新発田市立御免町小学校）

阿波国で行われた「全公教　徳島大会」に参加しました。三日間の研究大会は、３部構成①シンポジウム、②分科会、③記念講演です。全国各地の教頭先生方と交流し、新しい知見を得たり同様の課題に共感したりでき、実り多い３日間でした。

初日、徳島名物の阿波踊りで迎えられました。シンポジウムのテーマは「郷土への誇りをもち、人との関わりを深め、たくましく生き抜く子ども育成」です。新しい学習指導要領で目指す児童生徒の姿です。シンポジストの一人、文部科学省大臣官房審議官、浅田和伸氏の「人と関わる力は、我慢すること、想像すること、あとはスキル」との言葉が心に残りました。

２日目の分科会は、７名のグループで「教育課程に関する課題」①地域連携・学校間連携、②地域の特色を生かす教育課程について、意見を交換しました。福岡、滋賀、岩手等の教頭先生方が、お国の言葉で語る学校の実情や取組は斬新なものがありました。「県が違っても・・」と思う共通の学校課題も多くありました。意見が交わされる中、私の感じたキーワードは「マンパワーの確保と創出」、「カリキュラムの整備」、「スクラップの必要性」でした。

最終日の記念講演、講師の横石知二氏は、地域人材と地域資源を発掘し、過疎と高齢に悩む町を再生された方です。氏の「居場所と出番と舞台作り、これが９割」との言葉に感じ入りました。人の「居場所と出番」をどのように創出するか。このことは舞台が、学級でも、職場でも、学校を含めた地域でも重要な視点です。「価値は見えているようで見えていない」との言葉に、「敏に感じること、そして、目を凝らしてよく見ること」を教頭として心していかなければと思いました。

「憤は進学の機関」との言葉があります。この研究大会が奮起の機ともなりました。いただいた機会を生かし、教頭として力を尽くします。

郡市教頭会ネットワーク

「群流」のごとき

三条市小・中学校教頭会
会長　後　藤　正　美
（三条市立三条小学校）

三条市は、信濃・五十嵐川の流れに集まり、止まることなく常に情熱的に前進する姿である。
第１号発刊は、信義と友愛に与えられた団結の強さである。その意義を評価し、ますます内容の充実に努め、三条市教育の指針を樹立する資としたい。

これは、三条市小・中学校教頭会の大きな特長の１つである研修冊子「群流創刊号」の巻末文です。「群流」という言葉に託した先達の願いを感じるとともに、現在まで脈々と受け継がれている当教頭会の姿勢を示しています。昭和44年度に創刊された「群流」は、市町村合併後にも継続し、今年度末には12号（通算48号）を発刊予定です。

当教頭会は、小学校21校、中学校９校の31名で構成されています。昨年度は、「県小中学校教頭会研究大会中越ブロック研究大会」の発表と運営、「関東甲信越地区公立学校教頭会山梨大会」と「全国公立学校教頭会研究大会静岡大会」の発表に向け、まさに「団結の強さ」を示し、積み上げてきた教育実践を発信したと自負しています。

こうした取組を支えてくださっているのが、小中一貫教育推進課と市校長会の皆様です。年３回の懇親会には、課長や指導主事の皆様、代表の校長先生方が参加してくださいます。教育委員会や校長会との距離が近いこと。これも大きな特長の１つです。

大きな発表を終えた今年度は、「義務教育学校」「学校預かり金」「危機管理体制」など、喫緊の課題をタイムリーに情報共有しています。

「群流創刊号」の巻頭言には、当時の教頭会会長近藤英雄先生の以下のような言葉があります。

ささやかな営みであろうと、かたつむりのようであろうとも、成果よりも道程を尊重し、教頭会の発展を願いつつ、協力切磋し合い、歩み続けたいものです。

今年度も、受け継がれてきた思いを肝に銘じて、三条市の教育の発展に寄与してまいります。

研修の充実と連携強化を目指して

燕市・西蒲原郡教頭会
会長　野　上　　孝
（燕市立燕東小学校）

燕市西蒲原郡教頭会は、小学校16名、中学校６名、中等教育学校１名の計23名会員での構成です。

年間を通して、多様な研修の他、各学校の情報交換や中学校区毎の情報交換を行っております。

＜充実した研修＞

月１回の定例会では、燕市教育委員会の指導として、指導主事より管理・運営面になど、ご指導を頂いております。その後に、研修部の研修計画に基づき有意義な研修を行っております。

毎年10月には、弥彦美術館で美術作品を鑑賞したあとに、弥彦村教育委員会教育長先生より講話を頂いております。また、毎年、１月には、燕市教育員会教育長先生より講話を頂いております。

更に、８月には、事務職員と連携して、合同研修会を行っております。今回は、公金の取扱いについての研修を行いました。新発田市の事務主幹を招いての講演会や、中学校区でのグループ討議を行い、教頭が事務職員と連携の大切や、適切な公金の取扱いについて学び直す良い機会となりました。

＜会員相互の連携について＞

研修だけではなく、会員相互の親睦を深めることも大切にしています。４月に「燕市５者合同懇親会」として、教育委員会・幼稚園・保育園・小学校・中学校の管理職による盛大な懇親会を行っており、その企画・運営を教頭会が行っています。

また、５月に教頭会歓迎会、８月に事務職員との合同懇親会、１月に新年会を兼ねた、燕市教育委員会と教頭会との懇親会、２月に教頭会懇親会と、年会５回の懇親会を行っております。お互いが抱えている悩みなども出し合い、親睦を深め、明日への活力につなげています。

以上　会員一人一人がもつ能力を互いに学び合い、各学校において十分に発揮できるよう、ますますの研修の充実と会員相互の連携強化を目指し、教頭会の活動を充実させていこうと考えております。

郡市教頭会ネットワーク

相互理解でつながる

佐渡市小学校教頭会
齋　藤　光　夫
（佐渡市立両津小学校）

今年度、教頭の未配置校１校を除く市内小学校23校教頭に、オブザーバーの県立佐渡特別支援学校教頭を加え、24名で活動しています。

１　組織

４月の総会で役員を選出。会長１、副会長１、会計監査２、庶務幹事１、会計幹事１、地区理事４、研修部７、広報部４、県代議員１の組織です。今年度は、佐渡市小・中教頭会の主管年度であることから、主管幹事１名を専任で選出しています（主管会計は会計幹事が兼務）。

２　研修

教頭としての資質向上を図るために、大きく２つの研修の流れがあります。

＜研修部企画研修＞

年２回。夏季研修（６月）と冬季研修（１月）を実施しています。会員の実践をもとにした研修や講師を招いての講演等、毎回、工夫を凝らしています。

＜理事企画研修＞

年２回。危機管理研修（７月）では、市役所総務課危機管理主幹様（H26）や市教育委員会管理主事様（H27、H28）からご指導をいただいています。実務研修（９月）では、事務職との連携・協働に向けた研修を行っています。今年度は、総括事務主幹様からご指導をいただきます。

３　会員相互のネットワーク

市教頭会では、Webグループウェアの活用が軌道に乗り始めました。メール配信や回覧板を活用し、市内各校の現状や意見を共有し合って各校の課題解決に活かしたり、部会の日程調整を図ったりWeb上での交流が業務の効率化につながっています。

さらに、広報部が年２回発行する「会報」や研修部が年度末に発刊する会員誌「ＡＭＩＧＯ」を通して、実践や研究会報告を共有し合う他、趣味・特技やエピソード紹介など多種多様な随筆により、会員相互の理解を深め、つながりを強めています。

山紫水明の地で、つながりの深い教頭会を目指して

東蒲原郡小中学校教頭会
会長　高　田　良　昭
（阿賀町立津川小学校）

東蒲原郡小中学校教頭会は、山紫水明の地、阿賀町で活動しております。小学校７校、中学校３校、合計10校で組織されている小規模な教頭会です。昨年度は、県小中学校教頭会下越Ｂブロック研究大会を阿賀町で初めて開催しました。会員全員で力を合わせ準備を行いました。

当教頭会は、お互いの顔が見え、つながりの深い教頭会を目指しています。少人数のよさも生かして様々な研修に取り組んでいます。毎月、町内各校を会場にして教頭会を行い、阿賀町教育委員会からの御指導や研修、情報交換等を行っています。また、毎年１回、地域の自然、文化、歴史を学ぶために町内４地区を持ち回りに地域巡検を行っています。

今年度は、来年度の県小中学校教頭会研究大会での発表に向けて毎回研修を行っています。研究課題「教育環境整備に関する課題」に対して、各校における教育資源の情報共有が必要と考え、教頭会が中心になり地域における人材リストの作成を行っています。そのために、町教育委員会や下越教育事務所社会教育課からも御指導をいただきながら、会員全員で知恵を出して効果的な人材リストを作成しているところです。

その他にも、各校校長からの講話や全国教頭会、関ブロ大会、中央研修大会の参加者からの伝達講習、「危機管理の在り方」「小中連携の在り方」等の研修を行っています。

これらの研修を通して、会員一人一人がもつ学校運営に関わる能力を引き出し、学び合うことにより、東蒲原郡小中学校教頭会としての協働性を高め、教頭としての資質能力の向上を目指しています。

今後も、小規模の教頭会のよさを生かしながら、互いに声を掛け合い、深くつながる教頭会を目指して取り組んでいきたいと考えています。

「日々の当たり前を徹底し 誰にも信頼される教頭に」

上越市立大島小学校
小　山　雅　広

「凡事を徹底する。」教頭を目指したころ、先輩教頭が教えてくれた言葉である。これを、教頭1日目から座右の銘として勤務している。

朝、誰よりも早く出勤し、職員室、校長室、校舎、校地を巡回する。児童が登校して明るい気持ちになるよう、窓を開け、教室の電灯を灯し、ごみや床の虫も片付ける。単純なことではあるが、その一つ一つに、児童に当たり前の毎日を過ごしてほしいという願いを込めて行う。

校長の意思決定に必要な情報も「朝の動き」で集まってくる。責任を自覚して行動していると、今まで見過ごしていたものが見聞され、改善や指示へと素早く行動を起こすこともできる。

「凡事を徹底する。」地味ではある。それを職員も意識して行動し始めると学校が変わる。爽やかで明るい学校運営を毎日意識して今日も凡事に取り組む。

日々、教頭として育つ

糸魚川市立中能生小学校
水　澤　　哲

赴任直後、校舎巡視や授業担当、各種書類作成及びその提出、PTAの対応等、多岐に渡って正確さと迅速さを求められる業務が一気に押し寄せ、圧倒されました。ある日の放課後、校長よりいただいた「私も通ってきた道だから、分かること・教えられることは全部伝えていきます。少々、耳の痛いこともあると思うけど、そのつもりで聞いてくださいね。」という励ましの言葉に、教頭として教え導いてくださる方が身近にいることを実感し、安堵したのを覚えています。一気に押し寄せる業務は、半年経った現在も変わりありません。しかし、分からないことは、校長をはじめ、周りの職員に聞く、近隣の教頭に聞く、教育委員会にも問い合わせる等、積極的に動くことで事態が好転する手応えを感じています。まだまだ多くのご指導をいただいています。一つ一つを身に付け、成長できるよう精一杯頑張ります。

新入会員の声

「田上の教育」

田上町立田上中学校
多々良　儀　仁

田上町は、「田上の子どもは田上で育てる」を合言葉に、キャリア教育を柱とした、幼児園、小学校、中学校の12か年教育を推進しています。幼・小・中のつながりを「縦の連携」、家庭・学校・地域のつながりを「横の連携」と捉え、縦と横が相互に係わりながら、郷土愛をはぐくみ、たくましく成長する子どもたちの育成を目指しています。教育に大変に熱心で、また理解ある地域だと感じます。

田上と言えば「温泉」のイメージが定着していると思いますが、それだけではありません。「たけのこ、あじさい、梅林、護摩堂山」と、豊かな自然に囲まれながらも、日本ではまだ珍しい「ラウンドアバウト交差点」もあり、先進的な試みも見られます。

恵まれた環境の中で仕事ができることに感謝し、学校、家庭、地域の要として生徒の健全育成のために一層努力します。よろしくお願いいたします。

地域と学校をつなぐ窓口として

見附市立見附第二小学校
清　水　祐　子

「教頭先生、今年は熊鈴の音がしないぞ！」４月の地域コミュニティの会で区長さんに言われた一言。熊鈴とは？その日から、地域についての情報収集が始まりました。昨年度から勤務している職員、児童、保護者、地域の方々から積極的に地域の様子や歴史などの話を聞きました。その中で、地域住民の学校や子どもたちへの思いを知ることができました。

当校はもちつき、煮菜作り、防災キャンプなど地域と共催の行事が多くあります。地域との調整は、教頭の重要な仕事です。調整は大変ですが、クマ出没時にはワゴン車で子どもたちを迎えに行ってくださるなど地域の方に助けられることも多くあります。

教職員と地域が一体となって子どもを育てていく学校を目指し、地域と学校をつなぐ窓口として、「ふるさと見附を愛する子どもの育成」に全力で取り組んでいきたいと考えています。

新入会員の声

「校歌で力をもらっています」

魚沼市立入広瀬小学校
小野塚　眞　郎

「見よ悠久の天地に　雪をいただく守門岳　朝日にはえてうるわしく　生くべき道を示すらん」

全校52名の子どもたちが心を込めて歌う校歌、とてもすばらしいものです。私は、校歌を子どもたち、職員と一緒に歌うたびに、「もっと子どもたちを輝かせたい。」「もっと職員と力を合わせて、いい取組をしていきたい。」と、心が引き締まり、自分の気持ちがぐんと高まります。

気が付けば、教頭として半年が経ちます。おかげさまで様々な業務も、何とか処理ができ、対応できるようになってきた感じがします。自分なりのリズムもつかめてきている感じがします。これも、私が困ったとき、すぐに教えてくれる、頼れる教頭会の先輩方からのお力添えがあったからです。

先輩方の姿からたくさんのことを学び、しっかりと職務を果たせるよう、日々努力していきます。

「地域の誇り」

新潟市立小合中学校
相　馬　直　子

当校は、琵琶湖周航の歌の原曲である「ひつじぐさ」を作曲した吉田千秋ゆかりの地域です。千秋は大正８年に24歳の若さで亡くなりますが、16歳で６か国語を独学でマスターし世界中のペンフレンドと手紙で交流していたそうです。幼少より病弱でしたがそれに負けることなく、様々なことに関心をもって果敢にチャレンジしていた千秋の生き方からは学ぶべき点が多くあります。生徒にとって自分の地域の誇りを知ることは大きな自信につながります。

また、「百花繚乱　咲くところ」と校歌に歌われるように『花の小合』という特色も誇りです。総合学習では地域に学び、地域を愛する生徒の育成を目指しています。今後も地域とのかかわりを深めながら生徒の活躍の場を広げ、生徒や職員、保護者、地域の方々の笑顔が満開になるように力を尽くして参ります。「小合中は地域の誇り」となるように。

教頭会の皆さんに感謝です

五泉市立五泉北中学校
佐　藤　　元

「教頭に見習い期間などない。４月１日から教頭として着実に仕事ができなければならない。」着任する前に多くの先輩方から言われた言葉です。しかし、その覚悟で気合いを入れて臨んだものの１日も持ちませんでした。わからないことが多く、とにかく何をするにも時間がかかるのです。特に、利用したいファイルがすぐに見つからないこと、そして次々にやって来る提出物の多さにため息をつくことがしばしばありました。そんな時、私を助けてくださったのが五泉市教頭会の皆さんでした。いつも笑顔で気軽に声を掛けてくださるので、安心していろいろなことを聞くことができました。同時に、自校の教職員との繋がりはもちろんのこと、教頭同士の繋がりがないと、学校はうまくまわらないということがわかりました。まだまだ聞くことの方が多いですが、いつか少しは恩返しができたらと思っています。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

日々是修行

胎内市立黒川小学校
小　林　隆　裕

同じ胎内市内から新任教頭として赴任してから半年が経とうとしています。元気で純朴な子どもたちに囲まれ、自然の豊かさと人の温かさを感じながら、教頭業務に励む毎日です。

前任校では教務主任で、席は教頭のひとつ隣でした。職員室内での移動距離は机ひとつ分ですが、役割の違いや責任の重さの違いを大いに実感しています。初めてのこと慣れないこともたくさんありますが、校長先生からきめ細かいご指導を受け、温かな職員や保護者・地域の方々に支えられながら日々頑張っています。

地域と歩む学校づくりをめざして邁進する黒川小学校の力となれるよう、忙しさに流されることなく、「日々是修行」をモットーに精進してまいります。皆様、ご指導よろしくお願いいたします。

特集 キャリア教育　おぢやふるさと夢づくり

小千谷市小中学校教頭会
武　井　正　明
（小千谷市立南中学校）

小千谷市では「心豊かに　たくましく生きる　小千谷の子ども」を目指す子ども像として「おぢやっ子教育プラン」を基盤に教育活動を展開している。その目指す子どもの姿に迫る３つの視点として、今年度は新たに「ふるさと夢づくり」が加わった。これは小千谷の学校の特色ある教育活動のひとつであるキャリア教育を、従来以上に推進していくことを示している。

小千谷市が進めるキャリア教育は、大きく５つの取組がある。

（１）学校の卒業生から子ども時代の話や生き方・職業観を直接聞くことで、自分の夢づくりの参考とする「『ようこそ先輩』授業」

（２）あいさつの仕方や応対等、職場体験を前にしての基本を学ぶ「職場体験前ビジネスマナー講習会」

（３）「感動！３日間の職場体験」

（４）地域の事業所や祭り等での体験活動を通して、自分の夢に向かって挑戦するとともに郷土への貢献意欲を高める「ジョブチャレンジ」

（５）小千谷の地元産業（製造業）企業の見学

今年度、市内中学校キャリア教育で大きく前進したのが「職場体験活動」である。これまでは各学校で個々に訪問企業に交渉していた。当然、一から交渉するわけで、受け入れ企業側も、日程調整など煩雑さが先行し、受け入れていただけないことも少なからずあった。

４月に行われた「キャリア教育担当者会議」での各校の切実な声を受け、教育委員会から小千谷市内の企業・事業所へ『小千谷市中学２年生職場体験活動を応援してください』という文書が配付された。その文書には、

（１）中学校の「職場体験」の意義（自分が将来就きたい職業に挑戦するわけではなく、様々な職場で働く大人の姿を見て、働くとはどういうことなのか）を真剣に考える機会とする取組である。

（２）地域の産業の大切さや、マナーや言葉遣いなど基本的なコミュニケーション能力の育成を図るねらいがある。

（３）地元企業にとっても、企業・事業所の認知度の向上や、地元就職志向の意欲づけになること、中学校教育の一端を担うことで社会貢献活動となることなど、メリットがたくさんあることが盛り込んである。

そして、賛同してくれた受け入れ可能企業の一覧表を市教委が一括して作成し、各学校に配付した。その結果、市内全域の企業を対象に、下交渉を経た、一段階進んだところから受け入れ交渉を始めることができるようになった。

現在、南中学校では、キャリア教育担当職員を中心に順調に準備を進めているところである。

１年生では（１）自己理解（２）身近な職業について調べる（３）福祉施設訪問（４）上級学校について知る

２年生は（１）自己理解（２）職業体験（幅広い業種の体験）（３）卒業後の進路を考える

３年生では（１）自己実現（２）上級学校訪問（３）進路説明会・体験入学（４）進路相談

と学びを深めていく形になっている。

これらの取組によって、①人間関係形成・社会形成能力　②課題対応能力　③キャリアプランニング能力　④自己理解・自己管理能力を重点的に育てていく。生徒一人一人が自立して、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方の実現を可能にしていく足掛かりとしたい。

随　想

歴史を記す

妙高市立新井小学校
石　田　浩　久

過日、新潟県立文書館から問い合わせがあった。明治14年頃の職員に関する内容である。早速、金庫から学校沿革誌を取り出す。135年前の記録は残っているだろうかと半信半疑でページを繰る。黒々とした墨書による達筆。読むのに時間がかかる。目的の職員の名前が見つかった。日本史の教科書にも載る有名な人物である。新井小学校で、この地域の先人に教鞭を振るっていたのである。数名の職員に話してみるが、誰もこの事実を認識していなかった。

歴代の教頭先生方が学校沿革誌を丁寧に記録し、きちんと保管してきたからこそ、歴史を掘り起こし再確認することができるのである。学校にはそのような資料が、たくさん残されている。新井小学校には、この４年間で３校が統合された。４校分の膨大な資料が保管されている。

閉校直前の前任校では、昭和40年代の卒業生の保護者からの資料照会や国民学校時の職員等の確認などがあった。教頭には、このような問い合わせが度々寄せられる。資料の整理と蓄積を怠ることなく、様々な問い合わせ等に誠実に的確に対応することが信頼につながる。

一方、机上は文書の山になりがちである。新たな文書量も増える一方であるし、大事な記録が後回しになってしまうこともある。貴重な資料を埋没させないよう、またしっかりと把握できるように整理・点検・保管に努め、引き継いでいくことは教頭の使命である。

４校の沿革誌によると、これまでの当校の歴史の中では1,000人を超える教職員がこの地域の教育に携わってきている。教職員一人一人の思いとそれぞれの地域の願いの積み重ねの中で、地域と学校の文化や伝統が培われ、目の前の子どもたちが育っている。先達が紡いできた学校の伝統や地域の特色を確実に引き継いでいきたい。

手のあたたかさ、言葉のあたたかさ　そして、心のあたたかさ

阿賀野市立安野小学校
伊　藤　健　文

低学年の下校時刻、いつものように児童玄関の階段に腰を下ろし「さようなら」と子どもたちを見送っていた時のことでした。

２年生の女の子が「教頭先生これあげるよ、お裾分け。」と、見ると小さなその手にはカボチャがありました。

このカボチャは、その子が生活科の学習で５月に水原の定期市に行き、自分で育てたい野菜として購入し、２ヶ月間毎日、畑に出かけては水をやり、雑草を抜き、「大きくなった」「花が咲いた」「小さな実ができた」「うちに持って帰ってみんなで食べるの」と様子を時々、私に話して教えてくれました。「よかったね、美味しくなるといいね。」「どうやって食べるの」などと話しながら、子どもたちが大事に大事に育てていることを感じていました。

ですから突然のプレゼントに、「本当に？ぼくに？どうして？…」私は、びっくりして、うれしさのあまり２人の女の子に早口に何度も繰り返して尋ねてしまいました。

２人の女の子は、「畑でたくさんとれたからあげるよ。お裾分けだよ。」・・・。「お裾分け？」　このやさしい響きに嬉しく思わず握手をして「どうもありがとう、おいしくいただきます。」とお礼を言いました。

何気ない日常にある一コマでしたが、その「お裾分け」という言葉は、相手を思いやる、豊かに恵まれた自然への思いを共有することのできる、そして、誰とでもよりよい絆を結ぶことのできる言葉であることを感じました。私の心を和ませ、癒やしてくれる言葉でした。

日本語は人と人とをつなげることを大切にした言葉だと考えています。だからこそ、伝えるだけでなく、つながるための言葉として大切にしていきたいと・・・・。今、いただいたカボチャを食べながら家族と食卓を囲んでいます。

新潟県小中学校教頭会
［　事　務　局　］
県教頭会ホームページ
全国公立教頭会ホームページ
〒950-0911　新潟市中央区笹口２丁目７－17和田ビル２F
E-mail　n-kyotoh@crest.ocn.ne.jp　TEL（025）244－8225
http://www.niigata-kyotokai.jp/　FAX（025）244－5060
http://www.kyotokai.jp/
※県教頭会ＨＰのURLに誤りがありました。お詫びし訂正いたします。